

今

のままでは、2020年度後半に

発注

ができなくなります…

現在多くのEOS/EDI(発注システム)で通信手段として利用しているISDNデジタル通信モード提供終了をNTT東西が発表しています。

利用できない

JCA手順

全銀手順

全銀TCP/IP手順

2020年度後半

発注
できない

商品
がこない

支払
できない

と、ならないように…

継続利用が可能

流通BMS

Web-EDI他

今のうちに

- 情報システム部門に確認
- サポートIT企業に確認
- 取引先に相談

本件のご相談は

流通BMS協議会 事務局

一般財団法人 流通システム開発センター

T 03 5414 8505 E ryutsu-bms@dsri.jp

www.dsri.jp/ryutsu-bms

All Contents copyright© Supply Chain Standards Management & Promotion Council

EDIは流通BMSで決まり

- 業務の効率化、経営の見える化を実現するための基盤
- 業界全体で使うと決めて統一したEDIは流通BMSだけ

標準化のメリット

拡大: EDI取引が広がる
簡単: 様々なパッケージ・サービスが提供されている
安心: 将来を見据え軽減税率に対応済み
拡張: 会計業務効率化に向けた金融連携

インターネット通信のメリット

早い: 通信時間短縮
安い: 通信コスト削減
安心: 通信安定、災害に強い

EDIのメリット

伝票レスで効率化
検品レスで効率化
請求レスで効率化

業務の効率化、経営の見える化の基盤

業務の効率化

伝票レスにより入力業務や、月末の支払照合作業を短縮することができます。また、標準化によりEDI取引が広がり、自動発注の精度向上に繋がった事例もあります。

経営の見える化

素早い仕入計上ができ正確な粗利をタイムリーに掴むことができるようになり、素早い経営判断につながる基盤となります。

業界全体で使うと統一したEDIが流通BMS

標準化

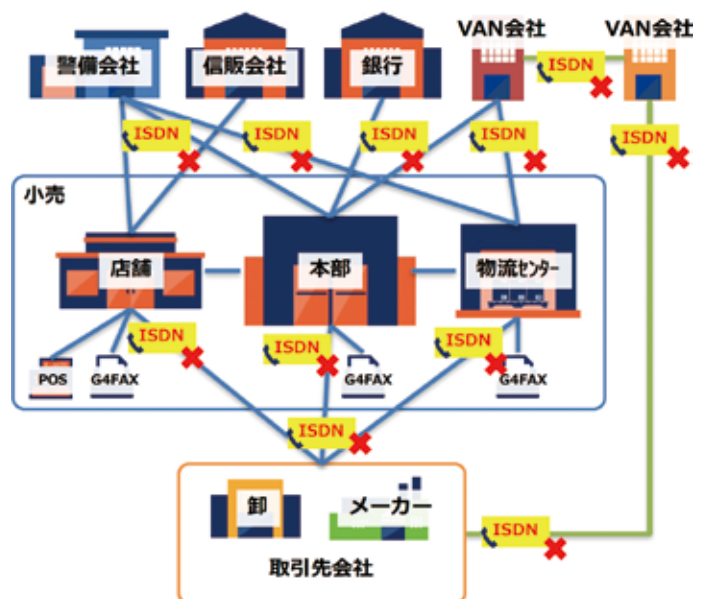
製・配・販で3年かけて策定した使える標準EDI。維持管理・普及を積極的に実施しています。標準に沿っているかどうかチェックする体制もあります。

早めの切替えが大切

ISDNの終了

ISDNはEDIだけではなく、POS、CAT、警備、金融、G4FAXなど様々なシーンで利用されている可能性があり、通信を行う仕組みを総合的に確認する必要があります。

とりわけEDIは多くの企業がM対Nでやり取りするため、ギリギリでの切替えでは対応する卸・メーカー側の作業が間に合わなくなる場合が懸念されます。



詳しい内容は「流通BMS協議会」で検索

流通BMS協議会

検索

協力:

